

“環境の世紀”を切り拓く

2011年3月10日印刷 2011年3月15日発行 1966年6月17日 第3種郵便物認可
ISSN0916-9172CODEN: SKTAET

月刊

資源環境対策

3

JOURNAL OF RESOURCES AND ENVIRONMENT Vol.47 No.3

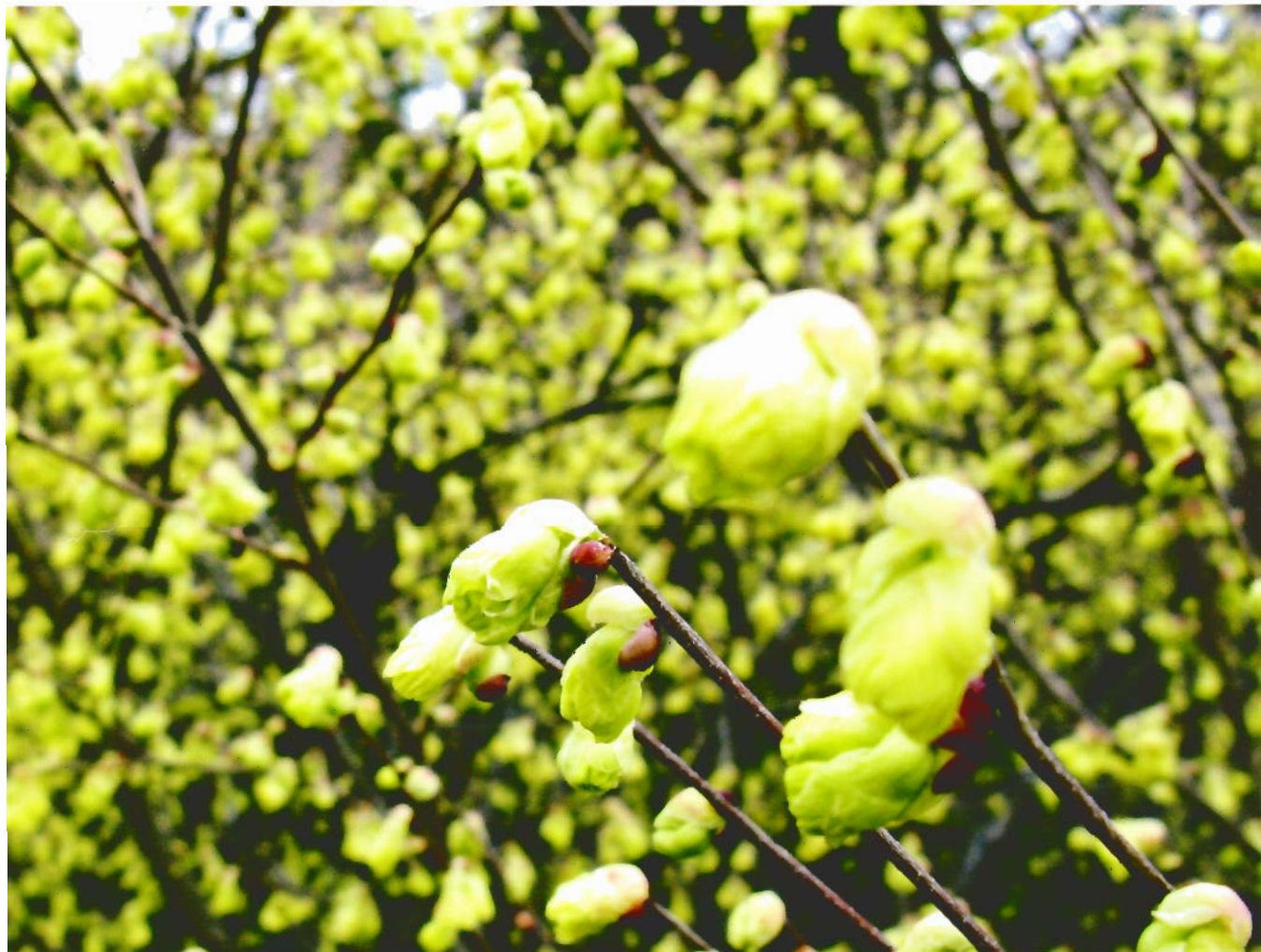
2011

特集

水環境保全をめぐる最近の動向

SME_S_EMS(中小企業向け環境マネジメントシステム)

エコアクション21審査人の生活—私の審査人生活
エコステージ導入事例の紹介



EA21審査人の生活 —私の審査人生活

宇田 吉明*

●私の審査人への道●

2000年に53歳で大手食品会社を勇退。摂南大学の非常勤講師をしながら、中小企業診断士兼環境・食品アドバイザーとして、2006年頃までは中堅食品会社の品質顧問、ISO14001やISO22000のコンサルティング、ISO14001の審査、執筆、講演などバランスよく仕事をして、収入も満足できる状態であった。

摂南大学で地球環境資源論を担当したことから、地球温暖化対策と資源対策が私のライフワークとなった。

その頃、大阪環境カウンセラー協会の副理事長に就任し、事業部門長を担当していたこともあり、2004年にはEA21のパイロット事業に審査人として参画し、地域事務局大阪の立ち上げにも参画した。この頃から、かなりの時間をEA21関連に割り当てるようになった。2005年には自治体イニシャティブ・プログラム、2006年には関連企業グリーン化プログラムが始まり、世話役として奔走し、段々と時間に余裕がなくなり、ISO14001の審査活動から身を引き、コンサルティングも手控えざるを得なくなった。

地域事務局の立ち上げ当初は判定委員長も務めたので、規定により審査もできず、収入は落ち込んできた。しかし、創成期の面白さがあり、また、地球温暖化防止活動をライフワークとしていたこともあり、事業者の温暖



写真 グリーン化プログラムによる集合研修

化防止対策として有効なEA21に惚れ込んでいった。

●私のEA21普及活動●

私がかつとも力を入れているのは、企業団体の関連企業グリーン化プログラムだ。

各団体とも、事業者の二酸化炭素削減対策の推進をCSRの一環として力を入れている。私は2004年から大阪府中小企業家同友会の会員企業の環境への取組みのお手伝いをしている(写真)。

EA21認証取得スクール(グリーン化プログラム)の他に、3年前からEA21認証を取得していない企業でも参加できる二酸化炭素削減コンペ(大阪同友エコ)を、2年前からは環境レポートコンテスト(大阪同友会エコフェスティバル)を、大阪同友会環境経営分科会の

* Yoshiaki Uda 宇田環境経営研究所

メンバーと一緒に推進している。とくに大阪同友エコは昨年から全国に広がり、大きな流れとなってきた。

また、今年は規模の大きな組織での中小企業の環境への取組みの支援も始まり、EA21の注目度が高くなってきたことを実感している。

●新たな審査人へのメッセージ●

新たに審査活動に参加する審査人には、審査を増やしたいとの希望があれば、事業者団体の環境への取組みを支援するところから出発してほしいと常にお話している。多くの団体も地球温暖化対策の推進には関心を持っており、これをお手伝いする一つの手段として、関連企業グリーン化プログラムを提案することが無理のない進め方だと思う。団体にとっては費用や労力の負担が少なく、会員向けサービスにもなる。

さらに、会員がEA21認証を取得すれば、二酸化炭素削減の実績も環境活動レポートで容易に把握できるので、効果も把握しやすい。

●私の審査実績●

図に、私の審査件数の推移を示す。

私の審査対象事業者はほとんどが関連企業グリーン化プログラムによるものである。ちなみに、自治体イニシャティブ・プログラムは世話役に徹しているので、その関連での審査は現在2件だけである。

2010の審査は45件である。前年は43件だっ

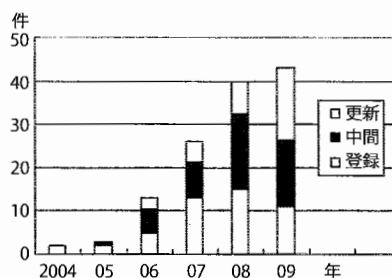


図 筆者の審査件数推移

たので、本来はもっと増えることになるが、別の審査人をお願いしたこともあり、伸び率は低くなっている。理由は、審査時期が重なることや、他の普及活動が増えてきたことで、余裕がなくなってきたことである。

●収入と生活●

年間45件の審査での収入はどうか？

1件10万円として450万円ということになる。実際には平均審査工数は2人・日より多いので、上記金額より多い。個別のコンサルティングは時間的余裕もないし、効率もよくないのでほとんどしていない。したがって、EA21関連での収入は審査料と集合研修での講師料である。

他の収入源としては、スポットの食品関連コンサルティング、過去にISO14001認証取得を支援した企業のフォローアップ、ISO14001内部監査員研修、ドイツのISO14001審査機関のテクニカルアドバイザー、各種研修会・セミナーの講師などがある。また、収入には結びつかないが審議会等の委員、NPOや市民活動団体の役員、執筆など結構な仕事量になる。

●私の審査人生活●

私は年金をフルにもらえるまでは2年あるが、“人生明るく楽しく”をモットーに、仕事はほどほどにしている。

私は、仕事ばかりしていると見られているようだが、実は、春、夏、秋と信州の山荘で家族と過ごす時間を大切にしている。これは30年以降続けているが、自由業になってからは、年間2カ月間は山の中で過ごしている。できるだけ、信州の山の中で過ごす時間を取りたいと思っている。

山にいる間、チェーンソーを使っての間伐作業、薪割り、畑作業などの合間を縫って、EA21の集合研修で使用するテキストや様式類の改善、講演の原稿、大阪市なにわエコ会議の環境情報誌「なにわエコウェブ」の編

集、出版物の原稿執筆などをして過ごしている。インターネットがあるからこのような生活ができるのかもしれない。

夕方になると近くの温泉に行くのも楽しみの一つだ。

●おわりに●

EA21の審査人登録制度では、待っていても審査が回ってくるわけではない。少しでも審査の機会を作りたいと思えば、自ら開拓して行く以外にない。開拓から審査にたどり着くまでには2、3年はかかる。その間は、ほか

の収入源に頼るしかない。審査で生活できるかどうかは、本人の努力と工夫次第だ。

現場で環境活動の経験を積みながら、徐々に審査を増やしてゆけるようなソフトランディングのしくみをつくりたいものである。その一つとして、地域事務局員になってもらい、事務局員としての手当てを得ながら、自治体イニシャティブ・プログラムや関連企業グリーン化プログラムをまとめ、審査の機会を増やし、2、3年後に自立するようなしくみづくりをめざして行きたい。

*
* *